

## 令和6年度 諏訪市総合計画外部検証委員会 会議録

### ○ 日 時

令和6年7月9日（火）午前10時00分～午後3時30分

### ○ 会 場

諏訪市役所 3階 302会議室

### ○ 出席者

<諏訪市総合計画外部検証委員会委員>

宮下和昭委員、竹野入将宏委員、飯島千種委員、山村宜男委員、  
宮坂佐知子委員、山谷恭博委員、村上智仙委員、増田哲委員、  
藤森洋子委員、西田美紀委員、小山桂子委員

<事務局>

前田企画部長、柳平企画政策課長、堀川企画政策係長、名取企画政策係主任

<担当課>

中澤環境課長、片桐環境保全係長、小林生涯学習課長、土田博物館長、  
児玉博物館主査、三村こども課長、北原保育係長、岩波保育係主査、  
山寺都市計画課長、後藤公園緑地係長、石田公園緑地係主査、  
寺島観光課長、河西観光係長、山田消防課長、藤森消防係長、  
唐木田スマート化推進係長

（長野県環境部水大気環境課、諏訪地域振興局企画振興課）

### ○ 欠席者

<諏訪市総合計画外部検証委員会委員>

山岸絵美理委員

### ○ 会議概要

- ・直近の人口動態について報告。
- ・デジタル田園都市国家構想交付金事業について、外部検証委員会としての効果検証結果を確定。
- ・第六次諏訪市総合計画に基づいて実施した事業について、外部検証委員会としての効果検証結果を確定。

## ○ 会議録

### 1 開会

(柳平企画政策課長)

- ・ 令和6年度諏訪市総合計画外部検証委員会を開催する。

### 2 市長挨拶

(柳平企画政策課長)

- ・ はじめに、金子諏訪市長よりご挨拶申し上げます。

(金子市長)

- ・ 日頃から市政に対して注目をいただき、ご助言ご指導いただいております。感謝申し上げます。
- ・ この委員会は、私が市長1期目のマニフェストに掲げた「市民参加の事務事業評価」を継承してきたものでもあり、市役所の目線ではなく、市民の目線あるいは専門家の目線を入れることを大切にしている。
- ・ 第六次総合計画には33の基本方針があり、これに基づいて事業が行われている。本日は、本年度の検証対象として4つの事業をピックアップし、その効果について検証していただく。
- ・ また、これとは別に、国のデジタル田園都市国家構想交付金を受けて実施をした事業の検証についても検証いただく。
- ・ 昨年のこの委員会では、大変厳しく、効果的な、ありがたいご意見をたくさんいただいたと報告を受けている。それぞれの専門的な知見から忌憚のないご意見をいただきたい。

### 3 委嘱状交付・自己紹介

(柳平企画政策課長)

- ・ 年度切り換えに伴い、役員等が交代となったことなどにより新たに委員となっただけの方もいるため、委員の皆様から一言ずつ自己紹介をいただきたい。
- ・ また、会議時間短縮のため、新たに委員となっただけの方の委嘱状は机上配付とさせていただいている。

(※各委員自己紹介後、事務局自己紹介)

### 4 委員長選出(5 委員長挨拶)

(柳平企画政策課長)

- ・本委員会の委員長であった小池玲子氏ですが、昨年度ご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。現在、委員長が不在となっているため、要綱に基づき、ここで委員長の選出を行う。

- ・事務局の副案を示してご承認いただく形でよろしいでしょうか。

(※異議なしの声)

- ・それでは、事務局案として、長野県建築士会諏訪支部の宮坂委員にお願いしたいと思うが、よろしいでしょうか。

(※異議なしの声)

**(宮坂委員長)**

- ・皆様、改めまして、宮坂と申します。小池さんに変更しまして、本年度、委員長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

## 6 報告事項

### (1) 直近の人口動態について

**(宮坂委員長)**

- ・それでは議事に入る。
- ・報告事項「(1) 直近の人口動態について」、事務局から説明をお願いします。

**(名取企画政策係主任)**

※(資料1)に基づき説明

**(宮坂委員長)**

- ・この内容について、ご質問ご意見等ありますか。

(※質問・意見なし)

## 7 協議事項

### (1) デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証について

**(宮坂委員長)**

- ・それでは協議事項に入る。
- ・協議事項「(1) 地方創生交付金事業の効果検証について」、まずは事務局から概要説明をお願いします。

**(堀川企画政策係長)**

※（資料２）に基づき説明

（宮坂委員長）

- ・この内容について、質疑等ありますか。

（A委員）

- ・「デジタル実装タイプ」とはということなのか。

（堀川企画政策係長）

- ・本日検証いただく事業としては、こども課において、保育園の登降園管理といったものをデジタル技術を使って管理していくという事業が令和５年度から始まっており、そちらを検証していただく。

事業１ 「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の魅力向上・発信プロジェクト

（宮坂委員長）

- ・事業１「「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の魅力向上・発信プロジェクト」について、県が主体となる事業であるということで、初めに県の担当者より説明をいただき、その後市の担当課より取組などについて説明をお願いしたい。

（長野県環境部水大気環境課担当者）

※事業について説明

（小林生涯学習課長）

※（資料３）に基づき事業について説明

（片桐環境保全係長）

※（資料３）に基づき事業について説明

（宮坂委員長）

- ・この事業の効果について、生涯学習課は、「③地方創生に効果があった」、環境課は、「②地方創生に相当程度効果があった」としている。
- ・本来、事業効果については、資料２の説明にあったように、KPIとの比較によって判断されるべきものだが、この事業のKPIは、県主体事業を前提として設定されたものであることから、諏訪市のみの事業効果としては、それぞれの担当課が、イベント開催状況や参加人数などを踏まえて、総合的に判断したものと理解した。
- ・また、今後の方針については、生涯学習課は、「⑤予定通り事業終了」、環境課は、「②事業内容の見直し（改善）」となっている。

- ・生涯学習課については、資料に記載があるように、将来的に諏訪湖にフォーカスした企画展などを行っていくが、具体的な内容や時期は未定であることから、交付金を活用して行う事業としては予定通り終了ということで、記載されていると思う。
- ・一方、環境課の事業については、交付金を受ける前から毎年実施しているもので、今後も諏訪市単独の事業として、ブラッシュアップを図り実施していくものであるという認識のもと、「②事業内容の見直し」としているものであると受け取った。
- ・従って、両事業の今後の方針の違いについては、今後の事業内容や実施時期の具体性の程度の違いによって生じているものの、今後も諏訪湖に関わる事業を行うという点では一致しているものと思う。
- ・その点をお含みいただいた上で、この事業の効果検証の結果及び説明に対して、委員の皆様から質問等がありますか。

**(B委員)**

- ・テーマと活動が一致していないのではないかと。例えば、諏訪湖の水質が良くなっていることや、ヒシがどう生えているかというのを撮影して、それをデジタルとしてアップする。例えば、エックスでこういう活動をしていると発信したり、講演会をユーチューブから発信したり、デジタル田園都市国家にふさわしい、そういうテーマだったのかというところが、テーマの選定が違うのではないかという気がした。

**(堀川企画政策係長)**

- ・冒頭ご説明申し上げましたように、「デジタル田園都市国家構想交付金」と銘打っているが、この交付金の中にも分類があり、その中の一つに必ずしもデジタル技術を活用しなくても、地方の新たな人の流れだとか、活力を創出する取組に対して交付されるというものがある。
- ・この諏訪湖の事業については、「地方創生推進タイプ」というタイプのものになり、デジタル的な要素を必須としていない。

**(名取企画政策係主任)**

- ・補足となるが、「地方創生推進タイプ」というものが、この諏訪湖の事業を開始した令和3年度当初は、「地方創生推進交付金」という別の交付金であった。それが、デジタル田園都市国家構想の策定により、デジ

タルも活用していくということで、「地方創生推進交付金」が含まれた形で「デジタル田園都市国家構想交付金」となった。これが令和4年度途中での制度改正であった。

- ・今から新しく事業を始める場合は、「地方創生推進タイプ」でもデジタル活用が必須となっているが、令和3年度当初はそうではなかったの  
で、この諏訪湖の事業についてはデジタル活用を必須とされていない。

**(C委員)**

- ・これは県主体の事業に諏訪市がコミットしたということなのか。

**(県担当者)**

- ・県の方でまず諏訪湖を活用した地方創生の計画を考えるにあたり、諏訪湖に関する取組なので県だけで行うような計画ではなく、地域と連携して行うべき計画と考え、諏訪市と連携してこの3年間事業を実行させていただいた。

**(C委員)**

- ・諏訪湖の周りには下諏訪、岡谷もあるが、わざわざ自治体ごと分けたということか。

**(県担当者)**

- ・分けたというわけではなく、当初、諏訪地域の6市町村でこういった計画を一緒にやっていかないと検討させていただき、その中で最終的にこの交付金を活用し、計画に参加いただいたのが諏訪市のみとなった。
- ・諏訪湖に関する事業自体は、下諏訪町や岡谷市でも行っていて、県の方で進める「諏訪湖の日プロジェクト」にも事業を位置づけていたりもする。交付金の活用という差はあるが、諏訪地域の皆さんと計画、取組をさせていただいた。

**(C委員)**

- ・交付金を使って事業をしたのが諏訪市のみだと理解した。そうであれば、KPIで評価してもいいように思う。

**(県担当者)**

- ・「諏訪湖の日プロジェクト」は県が実施している事業で、このプロジェクトの中にいくつもの取組があり、例えば、その中の一つが県が実施する諏訪湖の日のフォーラムで、このような県の事業も構成要素であれ

ば、諏訪市の取組も構成要素となっており、今回のK P Iに関するものがすべて諏訪市の取組というわけではない。

**(C委員)**

- ・この生涯学習課が実施した企画展やフォーラムはその中の一部ということだと理解した。
- ・我々が検証するには、県主体で設定した課題にどうコミットしているかというようなことで判断すれば良いか。

**(堀川企画政策係長)**

- ・全体の事業は県が進めている。県が進めていて、その中の一部に諏訪市の2課が行った事業も組み込まれているということになる。
- ・このK P Iについては、県全体の事業についてのK P Iになり、諏訪市が行ったのはこのごく一部であるため、このK P Iと諏訪市の事業を直接的に比べるのは難しいという中で、担当課においては先ほど説明した判断理由をもって自己評価をしているということである。
- ・委員がおっしゃられたように、この県全体のコンセプトに対する諏訪市の事業のありようがどうだったのかといったところを含めて事業効果等をご判断いただきたい。

**(D委員)**

- ・ヒシを堆肥化したものはどう活用されているのか。

**(片桐環境保全係長)**

- ・工場で堆肥化したものを販売して活用していただいている。

**(D委員)**

- ・どこで買えるのか。

**(B委員)**

- ・富士見町の「みのり建設」というところで購入できる。

**(D委員)**

- ・ありがとうございます。そういう部分の周知が足りないと感じる。
- ・ヒシの除去について、中学生も除去作業をしていると思うが、そちらの方とは連携があるのか。

**(片桐環境保全係長)**

- ・諏訪市が主催で実施するものと、諏訪湖創生ビジョンの関係で県が主体で実施する事業があり、学生については、県の方に参加していただくことで毎年やっている。

**(D 委員)**

- ・中学生が参加している作業の方は、生徒たちに聞くと、大変だった、臭かったと、マイナスの意見が多い。今日聞いた取組は、とてもいいイメージを持たれているように感じたので、何か連携できたらいいと思った。

**(E 委員)**

- ・アレチウリ駆除、ヒシ除去、浮遊ごみ除去、それぞれ工夫してやっていると思うが、参加者数の目標はあるのか。

**(片桐環境保全係長)**

- ・ヒシ除去は船の関係もあり、70名程度を募集の定員としている。浮遊ごみについても、カヤックの関係で、去年は40名程度を上限として募集した。アレチウリについては、川岸でやるものなので、上限は特に定めず、近隣のボランティア等にお声掛けさせていただいて実施している。

**(E 委員)**

- ・ボランティアは共感から参加するものだと思っており、アクティビティも一つの要素だと思うが、多くの人に来てもらいたいものに関しては、どう共感を生むかが重要だと思う。
- ・私も草取りのボランティアに参加したとき、取ってすぐ効果が見えるものでもないのに、そのモチベーションって難しいなと思って参加した。
- ・アクティビティ含め、どう共感を生んでいくのか、それをやったことでこんな効果が出ているということを伝えていただくと、参加者も増えるのではないかと感じる。

**(A 委員)**

- ・県の事業は、交付金としてはいくらの事業になるのか。

**(県担当者)**



- ・令和5年度は、計画額として約900万円程度の事業を計画して実施した。実施内容としては、「諏訪湖の案内人（仮称）」検討のための事業費や魅力発信のための動画作成、イベントフォーラム開催などをして、そのくらいの規模感となっている。

#### (A委員)

- ・900万円程度が県のトータルの事業費で、諏訪市の部分は資料1ページの一番下、令和5年度交付金事業実績額100万円程度ということか。
- ・今まで報告を受けている中では、どちらかという諏訪湖の湖面のイベント的なものに限られているような感じがして、諏訪湖の創生という根本的なところにメスが入ってないのではないかと感じている。
- ・毎週のように船に乗るので、諏訪湖が浅くなっている、浚渫がほとんどされていないという状況を知っていて、予算規模はどうかということと質問した。900万円程度では到底できないが、知事も諏訪湖で泳いでみたいと言っているようなので、もっと根本的に諏訪湖の浚渫に手をかけていただきたい。
- ・ヒシ取りも機械を入れてやっているようだが、ごく限られた範囲のヒシ取りに終わっていて、ただのイベントのように私は感じてしまう。本気でやるのであれば、取る時期やタイミング等見ながらやる必要がある。
- ・春先に1回やったようだが、今は青々としている状況なので、そういうところをもう一度メスを入れていただきたい。

#### (県担当者)

- ・今回は地方創生のための交付金ということで、その視点からの取組として計画額900万円ほどの事業を実施させていただいた。
- ・それとは別に、県としても浚渫やヒシ除去には取り組んでいるが、そういったご心配の声はお聞きしているので、関連部署と協議しながら引き続き推進していきたい。

#### (宮坂委員長)

- ・この事業の効果について、生涯学習課は、「③地方創生に効果があった」、環境課は、「②地方創生に相当程度効果があった」、今後の方針については、生涯学習課は「⑤予定通り事業終了」、環境課は、「②事

業内容の見直し（改善）」になっている。これについて、この担当課の効果検証結果を、委員会としての効果検証結果としてよろしいでしょうか。

(※挙手多数)

- ・ありがとうございました。担当課の効果検証結果どおりとします。

## 事業2 保育園ICTシステム導入事業

(宮坂委員長)

- ・事業2「保育園ICTシステム導入事業」について、担当課より説明をお願いしたい。

(三村こども課長)

- ・保育園ICTの導入事業については、これまで保育現場で紙や電話等で行っていたものをデジタル化することにより、保護者の利便性向上と、全国的にも課題となっている保育士不足の一つの要因である保育現場の負担軽減を図り、保育の質の向上を目指して昨年の10月から導入したものである。
- ・詳細は担当者から説明する。

(岩波保育係主査)

※(資料3)に基づき事業について説明

(宮坂委員長)

- ・保育園ICTシステム導入事業について、担当課においては、資料にあるように、「②課題解決に相当程度効果があった」、今後の方針については、「①追加等更に発展させる」となっている。
- ・この効果検証結果及び説明について、質問やご意見はありますか。

(F委員)

- ・本当に素晴らしいもので、以前ニュースになったが、バスの中に置き去りになってしまった痛ましい事件のようなことが防げるのだと感じた。
- ・保育士の皆さんも、やはり苦手な方もいるというのもよく分かる。効率化検討部会員の方々にバックアップに力を注いでいただきたいと思う。
- ・ダウンロードの累計数がかかなり高いということで、すべての家庭で使われているという説明だったが、外国籍や障がいのある保護者の方が上手に使えないということはないか。

**(岩波保育係主査)**

- ・外国籍の方、障がいをお持ちの方含めてダウンロードされている。
- ・言語対応としては、日本語の他に、英語、ポルトガル語に対応している。実務的な話になるが、一対一でメールのようなやりとりができるため、例えば、なかなか登園しない家庭が対応していない言語を使う場合には、ローマ字で「どうされてますか」と送る。英語は分からないがローマ字は分かるというような場合に、そういったコミュニケーションができる。これは現場から出てきた活用法で、こういうところを大事にしていきたいと思っている。

**(F委員)**

- ・メンテナンスの件で、小学校ではタブレットを配布して、何年か経って非常にメンテナンスに苦慮している。メンテナンスも、バックアップする体制はできているのか。

**(岩波保育係主査)**

- ・タブレットに関しては、5年間保証で、故障理由不問の保証をつけている。理由として、保育士によって得意、不得意の差があるので、「絶対に壊してはいけない」と言うと、使えなくなってしまう。こども課としては、「壊してもいい」とまでは言わないものの、「とにかく使ってほしい、使った上で、壊してしまった場合はしっかり保証がある」と言って保育士にお願いしている。

**(G委員)**

- ・KPIのことで、「システムによるお便り配信数」が、目標値に対して実績がとても高く、それはそれで良いかと思うが、年間にどの程度のお便りがあるのか、分母が分からないので判断しづらい。
- ・「システムによるお便り配信数」というよりも、システムでの配信のパーセンテージをPRした方がより合理的だと感じた。
- ・また、「アンケートの実施数」というのもKPIにそぐわないので再考した方が良いと思う。むしろ、その下に満足度のKPIがあるが、これがとても重要なので、この部分をもう少し深掘りするようなKPIに変えた方が、より効果的な検証ができると思う。

**(岩波保育係主査)**

- ・ お便り配信について、紙配布からシステムでの配信にほとんど移行しているが、引き続き紙配布しているお便りも一定数ある。例えば、給食の献立表。ゼロカーボンシティという市の方針があることや、簡素化、負担軽減をしたいと考えている一方で、保育園が元々もっている温かみや、献立表を冷蔵庫に貼っている家庭が多いことなど、なかなか切り離せないところがある。
- ・ アンケートについては、企画政策課と相談しながら考えていきたい。

#### (E委員)

- ・ 私もあまりタブレットなど得意ではないので、苦慮している先生も多いと感じるが、タブレットの操作の面だけではなくて、これを導入したことによる課題は保育士から何か出ているのか。

#### (岩波保育係主査)

- ・ コドモンがパッケージ化された商品で、近隣の辰野町や箕輪町も使っているシステムなので、定型化されている。保育現場でやっていることは、市内の各園でも少しずつ違うこともあり、痒いところに手が届かない、システムの方ではどうにもできないことがある。
- ・ その中で、少しルールを変えたり、考え方を変えたりして対応しているが、長く定着してきたことを変えることに対しての抵抗もあり、そういったせめぎ合いは課題として感じている。

#### (H委員)

- ・ このコドモンについて、多くの保護者から非常に使いやすいと聞いている。
- ・ ただ、昨年、一昨年までのコロナ禍のように、家族全員が休まなければいけないという時に、保育園、小学校、中学校、高校とすべてシステムが違うということで、それぞれ入力しなければいけない、このシステムの入力の仕方はどうだったかと、かなり迷われていたそう。
- ・ ここで言うことではないかもしれないが、全体的なシステムを作り上げるといったことも大事かと感じた。

#### (岩波保育係主査)

- ・コドモンを学校で使用している自治体もあり、コドモンを運営している企業の構想としては、諏訪市では「母子モ」というアプリを健康推進課で導入しているが、そういった乳児用のアプリも作っているようだ。
- ・私も一保護者として、乳児、保育園、小学校の3つのアプリを入れている状況で、意見として非常によく分かる。

**(A 委員)**

- ・タブレットを活用した事業として良いと思うが、個人情報もかなり入っていると思う。タブレットの管理はどのようにしているのか。
- ・また、園長や主任などの職責により、閲覧の権限などは確保されているのか。

**(岩波保育係主査)**

- ・まず、保護者の方が最も目にするのが打刻の画面だと思われるが、打刻をするアプリと個人情報が入っているアプリは別のアプリになっていてリンクしていないので、基本的に保護者が個人情報を見ることはできない。
- ・また、打刻をするタブレットにログインするアカウントには、個人情報等を入れない運用をしており、リスク分散をしている。
- ・コドモンも費用をかけて、L G W A N という行政専用の回線で運用し、個人情報が外に出ないように最大限の対策をしている。

**(B 委員)**

- ・アウトプット指標の「お便り配信数」が年間444件で、これは13園それぞれ別のものが配信されているから、これだけの数になっているという理解で良いか。444件が1園から出るといって多すぎて家庭が大変だと思う。

**(岩波保育係主査)**

- ・各園の積み上げと、こども課からの児童センターのイベント等の告知も含めている。

**(I 委員)**

- ・身代金目的ハッカーのような犯罪への対応や、データのバックアップは何かしているか。

**(岩波保育係主査)**

- ・バックアップはコドモン側で行うよう仕様に含めて契約している。ハッカーについては、先ほども説明したL G W A Nという行政専用回線を使用しているため、大元でシャットアウトできる。

(C委員)

- ・すべての家庭においてダウンロードされているということだが、スマホを持ってない家庭はないということか。

(岩波保育係主査)

- ・スマホかタブレットかは持っているということになる。

(C委員)

- ・そこで取り残されるような家庭があると問題だと思ったので質問した。
- ・コドモンの他に保育園の支援をするようなアプリはあるのか。

(岩波保育係主査)

- ・様々なアプリがある。茅野市は別のアプリを使用していて、松本市もまた別のアプリを使用している。

(C委員)

- ・コドモンを選んだ理由は、この交付金事業にコドモンが紐づいてきたというイメージか。

(岩波保育係主査)

- ・こども課として実現したい保育士や保護者の利便性向上という目標があり、それが実現できる保育支援アプリをプロポーザルで選定した。
- ・2社応募があり、選定する中でコドモンに決定した。

(C委員)

- ・先ほどからも課題にあるように、それだけ様々な業者があれば、様々な選択ができると思うので、将来的にはさらに素晴らしい最適解を選んでほしいと感じた。

(宮坂委員長)

- ・この事業について、担当課の検証結果は、「②課題解決に相当程度効果があった」、今後の方針については、「①追加等更に発展させる」となっている。この担当課の効果検証結果を、委員会としての効果検証結果としてよろしいでしょうか。

(※挙手多数)

- ・ありがとうございました。担当課の効果検証結果どおりとします。

## (2) 第六次諏訪市総合計画に基づいて実施した事業の効果検証について

### (宮坂委員長)

- ・協議事項「(2) 第六次諏訪市総合計画に基づき実施した事業の効果検証について」、事務局から説明をお願いします。

### (堀川企画政策係長)

※資料4の1ページに基づき説明

### (宮坂委員長)

- ・この内容について、質疑等ありますか。
- (※質疑等なし)

事業1 都市公園整備事業
--------------

### (宮坂委員長)

- ・事業1「都市公園整備事業」について、担当課から説明をお願いします。

### (後藤公園緑地係長)

※資料4に基づき事業について説明

### (宮坂委員長)

- ・この事業について、担当課においては、「A現状のまま継続」と評価しているが、この検証結果及び説明に対して、何かご質問ご意見等ありますか。

### (F委員)

- ・公園の設置状況や特徴により、補助金の交付対象にならない公園があるということだが、これはたくさんあるのか。どのような公園が対象にならないのか。

### (後藤公園緑地係長)

- ・要件については、一番ネックとなるのが公園の広さ、面積。
- ・遊具の工事に対してはそのような要件がないが、公園の施設の場合には2ヘクタール以上という、面積に対する要件がある。30公園中5公園が2ヘクタール以上で、それ以外は要件に当てはまらない。

### (D委員)

- ・子どもたちを公園に連れて行って遊具で遊ばせるとき、この遊具はいつ点検されているのかを気にすることがあるが、それがどこに書いてあるのか、チェックがいつされたのかが分かりにくい。これらの明記を大々的にしていただくと安全安心につながると思う。
- ・近所の公園に、点検されたときに安全ではないと判断されたのか、ロープが張ってある遊具があるが、3年くらいその状態で、ロープも色褪せロープ自体がボロボロになっていて、子どもが遊ぶには怖い印象を与えらると思う。いつ直るとか、撤去の予定だとか、何を見れば見通しが分かるのか、何かに書いてあるのなら教えてほしい。

**(後藤公園緑地係長)**

- ・更新計画を当初ホームページに掲載しているが、年度が過ぎる中で計画を見直しながら、優先順位をつけながら行っているところで、現状のものは明記されていないような状況である。
- ・現状ロープが張ってあるような公園の遊具は、今年度中にすべて更新していく予定となっている。

**(D委員)**

- ・そういう見通しの部分の周知、見てすぐ分かるということが市民には届いていないと思うので、検討いただきたい。

**(I委員)**

- ・諏訪市の公園の面積や数というのは、同規模の市に比べて、多いのか少ないのか。

**(山寺都市計画課長)**

- ・平均的な数字で特に多くも広くもない。長野市や松本市のような大きな市では、公園の面積も広く箇所数も多い。

**(I委員)**

- ・市民一人当たりの面積はどうか。

**(後藤公園緑地係長)**

- ・一人当たりの面積が、約14平方メートルくらいだと思うが、他の市もその前後くらいの面積だと認識している。

**(I委員)**

- ・新設や統合の予定はあるか。



**(後藤公園緑地係長)**

- ・今のところ新設や統合の予定はない。

**(I 委員)**

- ・蓼の海公園の更新後のアスレチック遊具の写真で、土台がむき出しになっているが、これは埋めないのか。

**(後藤公園緑地係長)**

- ・適当な写真が無く完成前の写真となっている。これはしっかりと埋めている。

**(C 委員)**

- ・更新前と更新後の利用状況の変化は測定できないのか。

**(後藤公園緑地係長)**

- ・すべての公園に管理人がいるわけではないため、利用人数の把握をしていない。
- ・例えば、この蓼の海公園では、近くに体験学習館という他課の管理する施設があり、公園の利用状況を聞いたところ、更新前も皆さんにご利用いただいていたが、現状も変わらず同じくらいの利用があるという報告を受けている。

**(C 委員)**

- ・写真を見ると、ただ新しくしただけでなく、現代風にアップデートしていて楽しげになっている。そういったことをアピールしながら、せっかくお金をかけて更新したので、より多くの人に使ってもらえるよう考えてほしい。

**(山寺都市計画課長)**

- ・利用人数は把握できていないが、PRとしては、ホームページや広報に掲載して、現地でも多くの利用者がいるということで大変ご好評いただいている。

**(C 委員)**

- ・観光客もターゲットだということなので、他のメディアでのPRも検討してほしい。

**(H 委員)**

- ・公園利用者数について、私は茶臼山に住んでおり、立石公園のすぐ下だが、今年のゴールデンウィークは立石公園に向かう外国人で渋滞が起きた。アニメの影響によるもので、外国人の利用者が本当に多いため、一度利用者数を計ってみた方がいいと思う。
- ・次の検証対象事業の観光の方と一緒にやってみたりすると面白いかもしれない。例えば、リフトを設置し、蓼の海まで行けるようにしてアスレチックを使ってもらうとか、何かもっと大きく考えてみても面白いと思う。

**(後藤公園緑地係長)**

- ・人数調査も検討しつつ、事業を展開していきたい。

**(堀川企画政策係長)**

- ・先ほどの委員のご指摘について、公園には都市公園と児童遊園があり、今ご説明しているのは都市公園である。
- ・児童遊園はこども課が管理しているもので、委員ご指摘の公園がどちらかが分からないが、先ほど今年度中に更新すると説明したのはあくまで都市計画課で所管している都市公園の話である。
- ・いずれにしても、ご指摘ご意見あったことは全庁で共有し、こども課の方でも積極的に周知しながら進めていくので、その点だけお含みいただきたい。

**(後藤公園緑地係長)**

- ・都市公園について修正で、今年度中に更新が完了すると説明したが、1ヶ所残っており、令和7年度中にすべての更新が完了する予定となっている。

**(D委員)**

- ・都市公園と児童遊園の違いはどのように判断すればいいのか。何かで分かるのか。

**(柳平企画政策課長)**

- ・児童遊園は条例に規定している。条例に、どこが児童遊園だと規定があるため、それ以外は児童遊園ではないということになる。昔は地区で管理していた小さいブランコしかないような公園は、児童遊園として整理しているところが多いかと思う。

- ・都市計画課が所管している公園は大きな規模の公園になるので、地元にある小さな公園は、おそらく児童遊園か地区で管理している公園ではないかと思う。

**(D 委員)**

- ・今日この会議に参加しなければ知らなかったことだと思う。
- ・小さな子どもを持つ一般的な市民の目線からすると、公園は市が管理してくれているものという認識なので、管理が手薄だと、諏訪市は子どものことを考えてくれていないという気持ちに直結してしまうと思う。
- ・人口動態の報告でも、若い世代の転出が問題になっていたと思うが、そのターゲットにもなる親たちが公園で子どもを遊ばせると思うので、この公園は諏訪市が管理しているということが明確になっていると、気持ち的に違うと思う。心理面というかメンタル面の話だが、そういうアプローチが少しずつ細やかではないように感じる。

**(前田企画部長)**

- ・確かに、公園に何課が管理していると書いてある文章のようなものがあまりない。その公園の名前も実は分かっていないかもしれない。
- ・例えば、公園に看板をつけて、都市計画課が管理している、地区が管理している、こども課が管理しているということが分かって、何か危ないものがあればどこへ問い合わせたらいいのかが分かるように、今後の課題として整理させていただき、しっかり共有していきたい。

**(E 委員)**

- ・公園にトイレがあり、色々な犯罪やトイレへの連れ込みなどが最近ではあると思うが、トイレなどに防犯カメラはついているのか。そういうことをしようとする人への抑止力になるし、子どもの性犯罪も今すごく多いので、教えていただきたい。

**(後藤公園緑地係長)**

- ・防犯カメラについては、現在1ヶ所だけついている公園があるが、他の公園にはついていない状況である。

**(宮坂委員長)**

- ・この事業については、担当課の検証結果は、「A現状のまま継続」となっている。この担当課の検証結果を、委員会としての効果検証結果としてよろしいでしょうか。

(※挙手多数)

- ・ありがとうございました。担当課の効果検証結果どおりとします。

## 事業2 観光グランドデザイン関連事業

### (宮坂委員長)

- ・事業2「観光グランドデザイン事業」について、担当課から説明をお願いします。

### (寺島観光課長)

- ・お手元にカラフルな観光グランドデザインの要約版をお配りした。これは、市長の2期目のマニフェストに掲げられたことをきっかけに、多くの関係者とともに作り上げてきたもので、諏訪市の未来の可能性を示したものの、将来の設計図、カタログのようなものになる。
- ・左上のイラストで表現してあるように、諏訪市のファンを増やすことで、地域経済の活性化、雇用の創出、それから交流人口、関係人口、定住人口、これらの増加につなげていくというもので、このグランドデザインを関係する方々と共有していくということである。
- ・左下は、「SUWAらしいが溢れる観光地」、これを基本理念として、私たちが目指す4つのビジョンを掲げた。
- ・右のページを見ていただくと、「SUWAらしさ」を紐解きながら地図上に落とし込んだもので、それぞれが連携してつながることで、ここでしか体験できない価値を提供するとしている。
- ・今回検証していただく、「誘客コンテンツ造成プロモーション事業」は、この観光グランドデザインを具現化していくためのツールである。
- ・持続可能な観光誘客を図っていくためには、意欲的な民間事業者の取り組みを発掘したり、後押ししたり、つながるきっかけを作ったり、発信したりといったことが重要なポイントとなり、そのための誘客コンテンツ造成プロモーション事業であるにご理解をいただきたい。
- ・詳細は係長より説明する。

### (河西観光係長)

※資料4に基づき事業について説明

**(宮坂委員長)**

- ・この事業について、担当課においては、「A現状のまま継続」と評価しているが、この検証結果及び説明に対して、何かご質問ご意見等ありますか。

**(D委員)**

- ・すごく素敵な取組だと感じたが、知らなかったことも多く、PRの部分をもっと大事にするといいと思う。インスタやエクスで「諏訪市」と検索すると、カフェが多く出てくる。カフェ巡りをする地元の人と観光客が多いので、何を求められているかということも大事になると思う。
- ・「諏訪市 観光 口コミ」と検索すると、「諏訪市はPRが下手」と出てくる。いいものがあるのにもったいないと思う一方で、自分で何かできるかと考えると思いつかないが、魅力とは何だろうと考えると、付加価値だと思う。複合されたものに魅力を感じると思うので、様々なところでコラボレーションしていくといいと思う。
- ・市民活動としてイベントをされている方がたくさんいるので、そういったイベントでPRの場を求めたり、諏訪市のマップを作りたいというインスタで人気の方もいるので、そういう方にこちらからアプローチしたりというPRもいいと思う。

**(河西観光係長)**

- ・インスタとエクスについては、観光課単独ではやっていないが、観光課で事務局を担っている諏訪地方観光連盟や観光協会の方でエクス、フェイスブック、インスタがあるので、すべてを諏訪市で行うというより色々な団体と上手く連携して取り組むのが一番いいと思っている。
- ・今、花火大会の準備の真っ只中で、花火大会のチケット販売をどうやって伸ばしていくかという課題に対して、観光協会にお願いしてインスタなどで発信している。新たに何かを始めることはなかなか難しいので、今あるもので上手く連携して取り組めるように努力している。

**(寺島観光課長)**

- ・補足になるが、諏訪地方観光連盟で、発信力のある方に諏訪のアンバサダーになっていただき、インスタ等で発信をしていただくこともやっている。また、発信力のある方がいたら是非ご紹介いただきたい。
- ・また、付加価値や掛け合わせで価値を高めていくことについては、誘客コンテンツ造成事業補助金で支援した事業者同士が、交流会等を通じてつながり始めていることもあり、その中でまた新しい価値が生まれてくることを期待している。

#### (F 委員)

- ・先ほど、立石公園に観光客が大勢来るといった話があったが、映画の力はとても強いと思う。「パーフェクトデイズ」というトイレの清掃員が主役の映画を渋谷で撮影し、渋谷区内のトイレの見学ツアーがすごく人気になり、それが渋谷区の観光収入になったと聞いた。
- ・映画やプロモーションビデオみたいなものも諏訪地域ではたくさん撮影しているので、それと掛け合わせたPRをすれば、観光客の中でも若い方たちが訪れるようになるのではないかと思う。

#### (C 委員)

- ・コンセプトにあった事業をする方に補助金を出すということで、令和6年度の目標が4件とあるが、現段階でマッチングしているものはあるのか。

#### (河西観光係長)

- ・今年度が最終年度となるが、4件募集していたところ6件応募があった。補助できる内容とできない内容の査定を今まさにしているところで、審査委員とやり取りをしている。まだ公表できないが、意欲的な民間事業者のどれかを落とすのはなかなか難しい中で、なるべく6件すべて採択できるように進めている。

#### (C 委員)

- ・今年度の募集は終わったのか。

#### (河西観光係長)

- ・募集期間は終了している。

#### (E 委員)

- ・私は諏訪市の出身ではないが、諏訪市はたくさん観光資源があって魅力的な街だと思う反面、ありすぎて、諏訪市と言ったときにこれというものがなく、ぼやけてしまい、それを絞るのはなかなか難しいと思うが、諏訪市としてこれを売っていくというものを絞ってもいいと思う。
- ・他の観光地でも、ここと言えばこれというのがある、皆に好かれるのは無理な時代だと思うので、その中で諏訪市としてどのような観光を描いていくのかがこれから大事だと思う。
- ・そういった中で、色々な事業、連携が広がっていった場合には、テーマ別にするとか、コース別にするとか、諏訪に行くところとこれが楽しめるといったコーディネートを今後していただければありがたいと思う。

#### (寺島観光課長)

- ・贅沢な悩みだが、様々な資源があるだけに、宝の持ち腐れになっている部分もあり、それをどうやって組み合わせる効果的に発信していくかについては、いつも頭を悩ませている。
- ・この誘客コンテンツ造成プロモーション事業等の募集をかけて応募いただくプロセスの中でも、ただ補助金の申請をいただき審査をして終わりというのではなく、どうしたらその事業がより良くなっていくかということ、伴走型で一緒に考えて作り上げていくということもしている。
- ・一つ一つのテーマを深掘りしていくことも必要であり、また、複合して組み合わせることも必要で、その両面で支援をしていくことができればと考えている。
- ・いずれにしても、行政が旗振り役となってやるよりも、いかに民間事業者の素敵なアイデアを拾い上げて、それを官民連携で良いものに作り上げていくかということが最大のテーマだと思っている。

#### (G委員)

- ・この補助金事業にどれくらいの事業者が手を挙げて、どれくらい採択されたのか数字的なものが分からないが、資料を見ると、1事業者あたり50万円ほどの補助額だと思う。それぞれの事業者のアイデアによって、事業化するまでの資金面の規模感が違うのではないと思うが、この事業に諏訪市として脚光を浴びさせるということを行政が意思決定す

ることはなかなか難しいと思う。そこは、民間の需要を事業者も考えているだろうし、金融機関も需要の調査をすることもあるので、そういった知見をぜひお使いいただきたいと思う。

- ・観光に来られる方は、諏訪市の観光だけを求めてきているわけではなく、諏訪圏域、あるいは長野県全体、日本と言ってもいいと思うが、諏訪市という一行政単位のテリトリーに固執することなく、もう少し大きく広げて、隣の市町村も含めて、様々なコラボレーションをしていくような観点が大事だと思う。
- ・様々なアイデアがあった時に、諏訪市の補助事業としての採択を決定しなければいけないと思うが、仮に採択されなかった事業でもニーズがある事業もあると思うので、そういった事業については、金融機関でも是非連携させていただきたいと思う。

#### **(寺島観光課長)**

- ・是非連携させていただければと思う。
- ・日々様々な工夫を考えているが、諏訪市ということに固執するのではなく、今年度初めて「連携枠」を設けた。諏訪市の税金を使っている以上、諏訪市に事業主体がなければいけないが、事業主体が諏訪市にあれば、その連携する相手は諏訪市以外の5市町村でも構わないし、それ以外でも構わないといった枠を設けて申請を受け付けた。受け入れる懐は広く持っていきたいと考えているので、また情報等あったら引き続きお願いしたい。

#### **(I 委員)**

- ・県で「元気づくり支援金」という補助金の制度があり、補助金で支援したが、お金の切れ目でやめてしまうというケースが課題となっている。
- ・令和4年度、5年度に支援したところは、その後続いているか。

#### **(河西観光係長)**

- ・基本的には続いているが、連続で3年間支援しそうなところもある。
- ・補助金があるから新しくチャレンジするというより、やりたいことがあるが、お金を支援していただければありがたいという考え方。今年度は査定が必要なので上限の金額を交付できないが、それでもいいという事業者が多数となっている。



**(I 委員)**

- ・補助金が終わっても続ける意思があるということか。

**(河西観光係長)**

- ・お金の切れ目が縁の切れ目になってはいけないので、基本は1年間、1回交付したら2年目から自立していただきたいという中で、補助金の要綱として、コンテンツを作っただけでは売れないので、プロモーションとテストマーケティングをしていただくような要綱を作っている。実際にお客さんに体験してもらい、コメントをもらってPDCAを回していき、2年目はご自身でやっていただく、自走していただくことを基本に考えている。

**(B 委員)**

- ・少し脱線するが、「世界湖沼会議」というのがある。世界に様々な湖があって、これを開催すると、先日のトライアスロンくらいの規模で人が動いてくる可能性がある。
- ・諏訪湖クラブに入っていると、世界湖沼会議を諏訪湖でやりたいという話が出る。琵琶湖や霞ヶ浦でやったことがあるらしいが、手を挙げればチャンスが転がり込んでくると思うので、そういったことも一緒に検討できれば大変ありがたい。

**(寺島観光課長)**

- ・世界湖沼会議に限らず、国際大会的なものを誘致したらどうかという話もたまにある。
- ・大切なのは収支のバランスが取れるかということと、オーバーツーリズムも問題になってきているので、来ていただいて、気持ちよく経済を回していただくという仕組みを同時進行で考えながら、そういったものを誘致することが諏訪市にとっていいのかどうか、観光課の範疇を超えてしまう部分もあるので、諏訪市全体で考えていきたい。

**(J 委員)**

- ・コンテンツが多すぎて絞りきれないというのが現状ではないかと思う。観光でも、目玉があってそれに付随する、主と従がある。市で基本的なコンセプトを決め、民間の人たちの知恵に対して補助をしていくと様々

なアイデアが出てくることにつながるが、どれがメインでどれが重要なかが不明確になっていると思う。

- ・インバウンドでも、諏訪市はただの通過地になっている現状があり、その一つの要因として、目玉がないということがある。辛うじてあるのが諏訪大社だが、事前のPRがあまり行き届いていないと、その歴史的な背景などがインバウンドの方に伝わっていないので通過をしてしまうということになる。
- ・このランドデザインの地図に描かれているすべてを実現することは不可能であり、諏訪市の観光コンテンツをシンプルに考えれば、平場では湖と温泉、あとは高原の霧ヶ峰であり、これをどうやって活かしていくかという市としてのしっかりとしたコンセプトがあり、それに対して民間の知恵を募集して発展させていけばいいと思う。その基本的なコンセプトがないので百花繚乱になってしまう。
- ・今回、トライアスロンでは皆様にご迷惑をおかけしながら大成功を収めたが、メッカにしようと始まったわけではなく、トライアスロンを経験する人たちが、「諏訪でもできるのではないか」という発想をして、それに協力していただいた。6市町村で同じ方向を向いて一つのイベントができたということは非常に嬉しいことであり、実際に諏訪湖で泳いでいる人たちを見たときに胸がいっぱいになった。トライアスロンがいいということになれば、それを主として、従の目玉を市の方で考えていただければ、トライアスロンについてはありがたいと感じている。

#### (寺島観光課長)

- ・主と従ということで、主となるのは湖、温泉、霧ヶ峰、これは諏訪市としても同様に考えている。
- ・例えば、湖での楽しみ方の提案としてトライアスロンもそうであるし、トライアスロンの場合には湖と高原の組み合わせの事業になる。湖については、様々な楽しみ方のアクティビティが出てきており、主となる湖の楽しみ方を様々な示していくことが、湖そのものの価値を高めていくことにもつながってくると思っており、湖を舞台とした提案もたくさん出てきている。
- ・霧ヶ峰をテーマにしたものも出てきている。

- ・温泉については、誘客コンテンツ造成プロモーション事業では特化したものが出てきていないが、価値を高めていくということで観光庁の高付加価値化事業等を使いながら、全体的に価値を高めている。試行錯誤ではあるが、ぜひ商工会議所、観光協会と協力をしながら、行政としての役割はどういうところが大事なのかも改めて考えてみたい。

#### (前田企画部長)

- ・先ほど委員の皆様からご指摘いただいたように、諏訪市には様々なものがあるということは私もずっと思っている。工業、観光、自然と色々ある。
- ・トヨタの会長が、ガソリンもやる、電気自動車もやる、水素もやる、全部やると言って、私はとても共感していて、諏訪市は色々あるからすべてに全力を尽くした方がいいのではないかと、というのが私の個人的な意見である。
- ・どこかに集中して、という考え方も確かにあるが、すべてにある程度しっかりと行政として関わっていくことを、企画を担当する部長としては思っている。

#### (A委員)

- ・諏訪大社、諏訪湖、霧ヶ峰、温泉があり、諏訪大社を除けばあとは自然で成り立っているわけで、そういう観光の時代は、主としてはそれでいいのかもしれないが、枝葉の問題をどうするかたちで観光に結びつけていくのか。
- ・諏訪の文化を観光に上手く使い、自然から文化に移行していくべきではないかと思う。
- ・今の観光客の流れを見ると、まさに諏訪は通過型。サイクリングロード、ウォーキング、ジョギングを含めてそのようなもので諏訪湖の周辺は一応整備がされた。トライアスロンの話が最初にあった時に、諏訪に国際人が集まれるような行事ができないかと前の岡谷市長に相談し、関係者と相談をして、トライアスロンをやろうかという話になった。諏訪の人で参加している人は少ないかもしれないが、多くの人が集まって、夜は賑やかにお金を落としてくれたという話も聞いているので、価値はあったと思っている。

- ・先ほどから、「諏訪らしい」ということを考えているが、自然のものはずっとそこにあって、それを享受してきているので、足りないのはやはり文化芸能関係などではないかと感じる。これから先、令和10年に国民体育大会が長野県で行われることになるので、それを一つの目玉にしなが、それにつなげる誘客ができればいいかと感じる。
- ・国内の大きい大会や国民体育大会、これらを諏訪でやるというと泊まる場所は湖畔になると思うが、野球もローイングも含めて、下諏訪町で泊まる人は限定されてくるので、諏訪市に泊まってもらう必要があるし、旅館やホテル関係が従来は観光客を目当てに大部屋で泊まってもらう仕組みだったが、ビジネスホテルタイプでシングル、ツインルーム等に洋式化しなければお客さんが泊まらないということもあり、市の観光に携わる方々にはそういう点の援助もしていただき、国にもそういう補助金の制度があるので、それを使ってもっと観光客が使いやすくなるようにし、ここに泊まってお金を落としてもらうことも大事なことだと思う。

#### (河西観光係長)

- ・観光ランドデザインをどう具現化していくかという中で、一番重要なのは地域にどうやってお金を落としてもらうかということだと思っている。先ほどから通過型という話もあるが、実はインバウンドも通過型ではなくなってきている現状がある。
- ・立石公園に行く外国人がゴールデンウィークに多かったという話があったが、上諏訪駅前の観光案内所でデータを取っていて、どういう外国人が、どこの国から来ているのか、そういったデータを取っている。多くのお客さんがわざわざ上諏訪駅で降りて立石公園に行くが、その後、その人たちはどうするかというと松本へ行ってしまふ。立石公園に来てはいるが、お金が落ちるところはない。お勧めできる情報はない。どこでお金を使ったらいいのか、何を買えばいいのか、どこで何を食べればいいのかということが伝わっていないのが問題だと思っている。今、誘客コンテンツの情報も、観光案内所にそのコーナーを作り、ここがお勧めなので行ってみてくださいと案内することが重要だと考えている。

- ・今年度については、京王新宿駅のインフォメーションプラザというのがあり、1年間場所を借りて情報発信ができる拠点を設けた。これは、令和元年から3年までの3年間、コロナ禍になってしまい外国人も来られなくなってしまったが、誘客コンテンツを進めていく中で事業者から話があったのが、プロモーションが課題でなかなか売れないという中で、ホームページの情報発信はもちろんやっているが、外国の方が新宿に来ているし、上諏訪駅にも来ているので、そういった方にお勧めをすることが大事だと考えている。
- ・飲食やお土産となってくると、様々な部署との連携も必要になってくるので、観光課ですべて取り組むことは難しいが、どうしたらお勧めできるか、そういったコンテンツが上手く伝えられるかということを悩みながら進めている。

#### (B委員)

- ・ホームページにはあまり旅行客はアクセスしていないと思う。Instagramやティックトックが今一番多いと目にするし耳にする。ホームページももちろん大事だが、こういうユニークなところがあるというのに惹かれて外国人の方も田舎まで出掛けるということなので、そういったアプローチが必要ではないかと思う。
- ・私はエプソンに勤めていたが、株主総会が紅やで開かれた。退社後7年経ってから出席し、大勢来ていると思ったら、30人か40人ほどしか来ていなくて、ルビーホールがガラガラという感じだった。そういったところにアプローチして、1泊2日で株主総会に来たらいいよというように、会社と結びついて、精密産業の基盤や、秋には諏訪圏工業メッセもあり、キッツも元々は北澤バルブとしてここに本社があり、もちろん株主総会はその本社本店がある場所でなければいけないが、例えばそういうところに話しに行くとか、そういった株主総会のようなものを使ってみるのがいいと思う。そういう人たちは関心を持っている人なので、それをプロモートしていけば、そこでまた知恵が集まり、新しい産業を開こうとか、商品開発をしようといった有意義な話が出てくると面白いと感じた。

- ・湖から霧ヶ峰のグライダーまで全部あるわけなので、例えばドローンの大会や、競艇を諏訪湖でやってみたいと言ってきた人もいた。可能性はすごくあると思う。

**(宮坂委員長)**

- ・観光について多くのご意見をいただいたが、この事業について、担当課の検証結果は、「A現状のまま継続」となっている。この担当課の検証結果を、委員会としての効果検証結果としてよろしいでしょうか。

(※挙手多数)

- ・ありがとうございました。担当課の効果検証結果どおりとします。

事業3 消防団員処遇改善
--------------

**(宮坂委員長)**

- ・事業3「消防団員処遇改善」について、担当課から説明をお願いします。

**(山田消防課長)**

※資料4に基づき事業について説明

**(宮坂委員長)**

- ・この事業について、担当課においては、「A現状のまま継続」と評価しているが、この検証結果及び説明に対して、何かご質問ご意見等ありますか。

**(D委員)**

- ・地域を守る活動をしていただいているので本当にありがたく思っている。消防団員として活躍する方は、20代、30代、40代の若手の方が多いと思うが、時代の変化とともに、家族を大事にする若い方が増えていると思う。私の地域の周りを見ても、奥さんの不満として、休みはないとか、月に何日も訓練に行ったりして夜いないという、奥さんたちがワンオペをしているような状況なので、団員の方ももちろんだが、奥さんたちへのサポートというか、感謝の気持ちを伝えるようなものがあるといいと思っている。とても大事なことはあるが、家族も大事にしてもらいたいと思うので、地域のママ友の叫びを言ってしまったが、本当に家族の時間も大事にできるようなシステムになるといいと思っている。

**(山田消防課長)**

- ・一昔前の消防団では、よく聞いた話が、お父さんが消防だと言って飲みに行き帰ってこない、奥さんたちから聞いたことがある。時代の変化は大きなもので、今、団員で活躍されている方々はとても真面目で、お酒を飲む機会がものすごく減っている。
- ・一方で、訓練や行事が諏訪市は特に多いと言われている。花火大会の警備などもあるので、他市町村と比べると確かに多いが、消防団員が「やってやろう」という心意気を持っているので、保たれている部分はあると思う。
- ・奥さんやお子さんと接する時間が少なくなってくるので、できるだけお父さんが活躍している姿を見てもらえるように、消防フェアや消防団の操法の大会などには、「家族を連れてきてください」というアナウンスをしている。また、ご家族で飲食をする場合には、消防団のサポートショップに寄っていただければ、子育て支援カードではないが、似たようなサービスが受けられる。様々な飲食店、事業所にご協力をいただいているので、ぜひ活用していただきたい。

**(A委員)**

- ・処遇改善の問題はかなり前から話があって、個人の口座に振り込みがされるようになったのは非常に画期的だと思う。
- ・通常の手当、報酬は別として、動員がかかった時のインプット作業は誰がやっているのか。

**(山田消防課長)**

- ・各分団の庶務部長がやっている。個人支給になり、行事には出たけど訓練には出てないとか、出席した人がはっきり分かるように、グーグルのスプレッドシートというもので管理している。個人の名前があり、出席ならマル、欠席ならバツというものを作成し、庶務部長や分団長に確認、承認してもらおうというかたちで厳密に行っている。

**(A委員)**

- ・振り込まれるまではどういう仕組みなのか。

**(山田消防課長)**

- ・お金の流れについては、そのスプレッドシートを毎月初めにメールで送っていただき、そちらを諏訪市の消防課の事務担当が取りまとめて支払っている。一つの大きな予算の中で出動報酬を出していくので、年度末に集計をしている。できるだけ災害の出動報酬は出さなければいけないので、災害を優先にして余った部分で行事、訓練などをプラスしている。使い切るという言い方はおかしいが、整合はとる中で、できるだけ消防団員に手当を支給できるよう工夫をしている。

#### (A委員)

- ・支払い不足が生じないように、実際に活動したのであれば、その分は支払ってあげていただきたいと感じた。報酬が個人の口座に入るとするのは非常にいいと思っている。

#### (H委員)

- ・人口減少とともに消防団員も減ってしまうだろうという印象があるが、仮に今の金額の支払いを続けた場合、将来的に今の人数が維持できるのか。もっと支払わなければ維持できないのかという目標値はあるか。

#### (山田消防課長)

- ・資料に載せている報酬は、年報酬と出動報酬、この二つの報酬で消防団員に報酬を支払うかたちになる。
- ・年報酬については、令和5年度から3万6千円という国の示した金額を支払っている。
- ・出動報酬については、長時間を要するような災害は8千円。4時間未満は4千円という金額で区別している。
- ・現状、年報酬については問題ないと思っているが、出動報酬については、KPIの令和5年度を見ていただくと、100%を超える報酬を捻出している。これは霧ヶ峰の2日間にわたる火災があり、ゴールデンウィークというタイミングで、ご家族でご予定もあったかと思うが、5月の4日、5日と出動していただき、その前日にも大手町で建物火災があり、ゴールデンウィークだからもっと報酬を出してあげてほしいという声もあるかと思うが、決められた金額となっており、できるだけ出動した団員が納得できるようなかたちで支払いをしていきたいとは考えている。今後、国の方から報酬を上げるように示されれば上がると思うが、



金額を上げたばかりなので、しばらくは現状を維持していきたいと考えている。

**(B委員)**

- ・今後の取り組みの方向性で、分団の再編に取り組むとあるが、裏のページに実員数の推移があり、なだらかに平成31年から下がっているのが分かる。第2分団や第3分団の特定の分団で、現状でも少ない分団がさらに少なくなってしまう。多い分団はいいと思うが、これについてイメージしているところや考えがあれば聞かせてほしい。

**(山田消防課長)**

- ・団員数はこのグラフのとおりで、令和4年から5年にかけて100人の団員が辞めている。これはその団員も頑張ってきていただいたことなので、仕方がない部分だと思う。課題は入ってくる人員が少ないこと。そういった中で、第2分団の管轄は大手町や湖柳町、立石町、いわゆる町場と言われるところで、5名の団員しかおらず、第1分団と共同で行事や出動をしてもらっている。
- ・第1分団においても、基本団員という、いわゆる消防団員の数よりも、OBで組織する機能別団員の方々が多く、それを含めて30名強くらいで、入ってくる団員がいない状況となっている。
- ・そういった中で、どうにか協力体制を作っていかなければ、火災が起きても消防団員が来ないでは困るので、管轄の入れ替えや、消防団の合併はなかなか難しい部分があるが、再編の計画策定委員会を立ち上げて検討をしている最中なので、来たる大災害があった際には、どうにか各地区で消防団員が多くの方々を助けられる体制を維持していきたいと考えている。

**(E委員)**

- ・消防団員で近所の若い方も頑張ってくれているが、そろそろ卒業だという声も聞いたりする一方で、他の地域を見ると年輩の方が消防団員だというニュースを見る。消防団員の年齢の基準や決まりがあるのか。

**(山田消防課長)**

- ・年齢は18歳以上の方で、諏訪市は定年制を設けていないので、年輩の方は上限なしということになる。他市町村では、65歳や60歳で定年

ということも聞くが、諏訪市では、協力いただける方には消防団に入団してほしいと考えている。男性ばかりではなく、女性目線でなければ見えない部分もあるので、女性の消防団員も募集している。地域に若い方などいればお声掛けしていただけると大変ありがたい。

**(D委員)**

- ・やはり聞けば聞くほど大変さが伝わる。言葉が正しいか分からないが、正しく評価されていないというか、感謝が伝わっているのかが不安になる。消防団員のモチベーションを下げないように、年に1回でも消防団員に感謝を伝えるイベントなどを別のところからできるといいと思う。
- ・報酬とは別に、もし活動中に怪我があった場合は保障があるのか。

**(山田消防課長)**

- ・外部の方々が消防団の集いのようなことをやっていただけると、とても張り合いになると思う。先ほどの消防フェアや、家族と一緒にできる事業、出初式や年末警戒など様々な場面があるが、家族の方やご近所お誘い合わせで見ていただき、応援していただければありがたいと思う。また、火災や水害の後には、「ありがとう」と言っていただけると力に変わるので、是非お願いしたい。
- ・消防団員が怪我をした際は、消防団員は公務員の特別職という位置づけなので、公務災害基金というところに掛け金を掛けて対応している。

**(D委員)**

- ・広報などに消防団員への感謝の言葉を載せるなど、日常生活の中で過ぎてしまうようなことも少し立ち止まってもらえるような、感謝の言葉をプラスの気持ちに変えられるように伝えることを何かできたらいいと感じた。

**(宮坂委員長)**

- ・この事業については、担当課の検証結果は、「A現状のまま継続」となっている。この担当課の検証結果を、委員会としての効果検証結果としてよろしいでしょうか。

(※挙手多数)

- ・ありがとうございました。担当課の効果検証結果どおりとします。

## 事業4 業務スマート化プロジェクト

### (宮坂委員長)

- ・事業4「業務スマート化プロジェクト」について、担当課から説明をお願いします。

### (柳平企画政策課長)

- ・行政を取り巻くデジタル化は目まぐるしく変化しており、特に国では、マイナンバーカードに関連した様々なデジタル化の取組を加速させている。そのような状況の中で、これから説明する業務スマート化プロジェクトでは、令和5年度に庁内の組織を大きく見直し、市民の利便性の向上、職員の事務の効率化を目指して様々な取組を進めてきた。
- ・特に、関連する業務ごとの部会、分科会などには、若手職員が積極的に参画することで、部局横断的な推進体制を構築し、全庁でDXを推進することができたと考えている。
- ・詳細は係長より説明する。

### (唐木田スマート化推進係長)

※資料4に基づき事業について説明

### (宮坂委員長)

- ・この事業について、担当課においては、「B手段改善の上継続」と評価しているが、この検証結果及び説明に対して、何かご質問ご意見等ありますか。

### (A委員)

- ・業務スマート化し、それを人件費に変えるのは難しいかもしれないが、これを進めるにあたり、職員数は変化があるのか。

### (柳平企画政策課長)

- ・職員数は、何名が適正かということもある。そして、DXの推進は今は過渡期で、何かをスタートさせるときは一時的にもものすごくエネルギーを使う。通常の業務をやりながらDXの推進をやっていかなければいけないというときに、これを導入したから人数を減らせるかということ、市民課で導入したキャッシュレス決済もそうだが、導入してすぐ使えるかということ、導入当初はかなり手間もかかるし、すぐには人を減らせない

と思う。DX化したことによって職員を減らすことを目的としているわけではない部分がある。

- ・ただ、そういうことをやっていって効率化されれば、職員を他の大変な部署に持っていくこともできるので、それも見据えながらやっていく視点は持っているが、現状は人を減らすためにやるかたちにはなっていない。

#### (堀川企画政策係長)

- ・私は3月まで市民課の国保医療係におり、先ほど説明のあった「ぴったりサービス」などの影響を大きく受けた。国保医療係は、年間で一番忙しいのは4月1日で、転出入の手続きで行列ができるくらいだった。私は平成31年の4月から市民課におり、出てきたのはこの4月だが、明らかにフロアに来ている市民の数が減っているという状況がある。
- ・もう一つは8月1日で、これも最も忙しい日の一つだが、この日には保険証の更新や限度額適用認定証の更新があり、これは市の事業ではないが、マイナ保険証が入ったことにより限度額適用認定証が不要になったので、これも明らかに減っている。
- ・4月の第1週、8月の第1週は、係全員が残業というのが常だったが、これらが明らかに減っているため、職員数の削減まではいかないが、時間外の人件費が減っているということは実感している。

#### (D委員)

- ・この業務スマート化プロジェクトを進めるにあたり、次に何をしていくかという優先順位はあるのか。

#### (唐木田スマート化推進係長)

- ・予算を伴うものになるので、予算編成の過程で事業計画、実施計画などを査定する中で、ある程度順位づけをしている。令和6年度では公共交通で、「チョイソコかりんちゃん」というものが始動していくので、それが大きな事業になるし、また、GISは非常に汎用的に様々な分野で効果があるため、予算をかけないかたちで、職員が手間を一時的にはかけて、データを拡充していくように、今あるツールを活用することに非常に力を入れている。

- ・電子申請についても、いくら使っても費用は変わらないので、なるべくその費用を有効に使えるように、今ある機能をフル活用することに重点を置いている。

#### (D 委員)

- ・便利になる一方で、不自由を感じる人はいないか、取り残されている人はいないかを考えたときに、思い当たるのは高齢者や障がいをお持ちの方だと思うので、自分たちの主観だけで物事を判断しないようにしていただきたい。
- ・書くことに抵抗感が強かったり、障がいがあって書くことが大変だったりという方がいるので、そんなところに先に寄り添っていただけるとありがたいと思う。

#### (F 委員)

- ・市民サービス向上の意味で、印鑑がなくても口座振替ができるとか、スマホ決済ができるようになったとか、便利になったと思っていれば、今日の説明でがん検診のオンライン予約までできるようになったということが分かった。私も一生懸命ついていかなければいけないと思ったが、市民課の入口のところで番号札を取って順番を待つようになっていて、銀行や病院も番号札を取って番号を待って、掲示を見ると自分の番はもうすぐなのかと分かるようになっていて、とても便利だと思うが、番号札を取るにあたって、どうしたらいいか分からないお年寄りにとっても優しく声をかけてくれる。これから機械化されていくにあたって、そういう案内ができる、取り次いでくれるような方の存在がとても大事だとも思うので、高齢者の方や障がいのある方にも寄り添えるようなサポートもつけたまま、DXを進めてほしいと思う。

#### (唐木田スマート化推進係長)

- ・午前の部の保育園のICTの中で、保育園の保護者は若い方も多いので、皆さんスマホを持っているということだった。このスマート化プロジェクトも、すべての人に、誰一人取り残さないということも大切にしていきたいと考えている。今年始めたもので、「ボックス」というQRコードを読み込むと音声で案内してくれるものがあり、障がいのある方だけをターゲットにはしていないが、例えば、外国の方で、読めないけ

れど日本語を聞くことができるような方についても、ボックスのQRコードを読み込んでもらえば、その文面の説明が音声で流れるというものもあるので、そういった部分も周知を図っていきたいと考えている。

**(G委員)**

- ・業務スマート化がとても大事なテーマだと思うが、先ほど窓口の業務の繁閑が平準化されて時間外労働が削減されたという成果があったということだったが、スマート化によって市役所の職員の皆さんの生産性の向上、業務の効率化を図ると同時に、市民への行政サービスをより高めていくという側面があると思う。
- ・有給休暇の取得率や育休産休のこと、あるいは、よく企業がエンゲージメント調査というものを行うが、働きがいや職員の意識の変化を数年に一度でも固定観測して、スマート化によって職員の働きやすさや働きがいみたいなものを観測したり、市民への行政サービスについても、市民へアンケートをしたりして、窓口は待ち時間が減ったとか、そういった効果が出てくると思うので、そういったものを継承する仕組みのようなものは何か考えているか。

**(柳平企画政策課長)**

- ・業務スマート化とは直接関係ない部分にはなるが、唐木田係長と私で職員の定数も扱っている。何かをやったから人が減らせるとか、時間外勤務というのも指標ではあるが、職員の配置をするときは、係長や、場合によっては係員も含めた職場の状況のヒアリングをしている。総務課では、年休の取得や育休の関係、男性育休も含めて周知もしているし、時間外勤務についても、なるべくやらなくていいように職員配置をしようということで、各課の係長を中心に聴き取りをしながらやっている。ただ、資源も限られているので、我々としては可能な限り効果的な配分というかたちになってしまう部分があるが、仕事に追われて生活も苦しい、家にも帰れないということがあってはいけないと思っているので、丁寧にヒアリングをしながら進めている。総務課と、人事を含めて連絡を取り合いながら、指標というか、システムみたいなものはないが、その部分は大切にしていかなければいけないと考えている。

**(唐木田スマート化推進係長)**

- ・補足となるが、市民からアンケートを取って検証した方がいいという意見をいただき、確かにそのとおりだと思う。今、対外的な指標としては、市民満足度調査の中にスマート化の項目があるが、具体的にどういサービスをどう受け止められているかという検証にまで至っていないため、今後検討していきたいと思っている。
- ・職員のエンゲージメントについては、資料に示した業務スマート化推進委員会の図の中で、スマート化部会に紐づいているペーパーレス推進分科会、次世代型市役所分科会というところは、主に若手職員を中心に運営する中で、どうしたらこの組織に愛着を持って働き続けられるかといった視点での議論をしてもらった。そういったことを通じて、働きたい組織づくりということが、スマート化や市民サービスの向上につながるということも実感しており、そういった観点でも考えながら進めていきたいと思っている。

#### (H委員)

- ・先ほどからホームページ等の画面を見せてもらっているが、スマートではないという印象。年輩の方は、クリックする場所も分からないだろうし、非常に見つけづらい。例えば、大企業のホームページなどはとてもスマートで、そういうものを少し真似していただいて、お年寄りはおそらくスマホではなくパソコンを使うと思うが、お年寄りがスマートに使えるように検討してほしい。

#### (宮坂委員長)

- ・この事業については、担当課の検証結果は、「B手段改善の上継続」となっている。この担当課の検証結果を、委員会としての効果検証結果としてよろしいでしょうか。

(※挙手多数)

- ・ありがとうございました。担当課の効果検証結果どおりとします。
- ・以上で協議事項は終了となる。進行を事務局へお返すする。

## 8 その他

※特になし

## 9 閉会

### (増田副委員長)

- ・午前中から大変多岐にわたるテーマで議論いただき、私も大変勉強になった。
- ・諏訪市の取り組んでいる事業について、今日集まっていたメンバーが、それぞれの分野の専門家、知見をお持ちの方なので、様々な角度から意見が出された。市の職員の皆さんには、すべてを受け止めていただき、さらに諏訪市が魅力ある市となっていくよう、そのきっかけになればいいと思っている。
- ・また来年以降もこういった委員会が開かれると思うが、来年の会議を待たずに、意見があればいつでも寄せていただければと思っている。
- ・今日は本当に長時間お疲れ様でした。